

平成22年5月26日

人事課

内線 2133

自治体ガバナンス塾の開催について

7月から開催する職員養成塾のキックオフイベントとして、“自治体職員有志の会”との共催で自治体ガバナンス塾を開催します。

1. 趣 旨

政権交代により、地方分権 地域主権へと、市民や自治体が地域運営の「主役」であるという位置づけが深まりました（第1は住民自治、第2は団体自治）。一方、地域主権に対しても「これまで国が決めたことを言いなりにやってきて、独創性も責任感もなかった自治体や自治体職員に、本当に地域主権が担えるのか」というものがあります（自己決定、自己責任の欠如）。そのような意見に対して、自治体や自治体職員は、実際に、政策を考え、実行し、市民が「これまでよりもサービスや自治体運営がよくなった」と実感いただくことでしか、本当の意味での説得力を持ちません。

自治体ガバナンス塾は、こうした背景の中で、自治体職員が、独創性、責任感、実行力を持って市民のために働くことで、市民からも、自治体からも正当に評価され、生き生きと働ける環境づくりを考え、自治体運営が根本的に変わるきっかけづくりをします（ガバナメントガバナンス）。

首長（市町村長）とその職員（職員研修の位置づけ）、他の自治体職員も参加（コラボレーション）して、実際に各自治体に共通する職員の独創性、責任感、市民性、実行性を阻む要因や課題と実行性ある解決策を共に考える場とします。

2. 日時・場所

平成22年6月26日（土）13時00分～17時00分

奈良市役所本館6階正庁（講堂・ホール）

3. 内 容

(1)開会挨拶・オリエンテーション（13時00分～13時10分）

(2)基調講演（13時10分～14時10分）

仲川げん 奈良市長

（仮）テーマ「市民がど真ん中の地域主権を目指して」

(3)参加者全員によるワークショップ～クロスロードゲームの活用

（14時10分～16時10分 途中15分程度の休憩をはさむ）

クロスロードゲーム（ 1 ）を活用して、実際に仕事や職場で、独創性、責任感、市民性を持って仕事をしていくうえで判断に悩む課題を「設問」（ 2 ）にして、参加者どうし意見交換・整理を行うことで、要因や解決策を考える場とします。

1 クロスロードゲーム

参加者が、実際の仕事や職場で感じている判断に悩む「課題」について、グループ討論を行うことで、主体的に考え、自分とは異なる意見・価値観の存在も気づきながら、解決策を共に考える手法。阪神大震災をきっかけに開発された。実際に防災分野での実施内容は以下のページをご参照ください。

<http://www.e-college.fdma.go.jp/bosai/main/hojyo48.pdf>

2 設問

現在、参加予定者で意見を出し合っています。以下のページに順次アップいたしますので、ご参照ください。(当日は、設問の中から絞って実施します)

<http://plaza.rakuten.co.jp/careerdesign/diary/201004150000/>

(設問例)

あなたはA市の市民との協働を企画する部門の職員。A市では、市民を市政の中心として考え、市民との協働政策を大幅に拡充したいと考えている。そのためのヒントを得るため、自治会やNPOの代表などに意見を求めたところ、市政や職員の仕事ぶりに対する不信感や、市民に協力を求めるよりもまずはA市がきちんと仕事をすべきだし政策を示すべきだとの意見をもらった。

あなたは、それでもまず始めに市民との協働を進めるため、政策立案のプロセス段階から市民が参画する会議の設置などを検討することを優先する(Y E S)、それとも、まずは、自らの政策や業務の実態を見直し、市民からも評価されるような仕事ぶりとなるよう内部改革を進めてから協働に取り組むことにする(N O)?

(4)意見交換(16時10分~17時00分)

仲川市長、スーパーバイザー(山崎仁士舞鶴市教育振興部長)と参加者の意見交換

(参考)「自治体職員有志の会」

あるべき自治体の姿、あるべき自治体職員像を考えるため会を設立。

「やりがいのある仕事」「なりたい公務員」を実現するための、全国の自治体職員及び関係者で構成されるネットワーク

会員数：702名(41都道府県257市町村の地方公共団体の職員等で構成 H22.5現在)

メーリングリストによる意見交換、ホームページによる情報提供、有識者を招いての講演会等の活動を行う。

(参考)「奈良市職員養成塾」

地方分権や道州制の導入を念頭におき、これからの自治体をマネジメントするのに必要な、専門性を持った自治体職員の能力を養成するために職員養成塾を開く。